

群 教 セ	G02 - 02
	平21.241集

歴史的事象の意味を広い視野から 考える力を育てる指導の工夫

—— 地域資料を織り交ぜた単元構成に

「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れて ——

長期研修員 阿久津 泰

《研究の概要》

本研究は、小学校歴史分野の課題解決的な学習において、地域資料を織り交ぜた単元構成を組み「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れることにより歴史的事象の意味を広い視野から考える力を育てることを目指したものである。具体的には、各過程の学習に地域資料を補助資料として取り入れ「ぐんぐん歴史ファイル」を活用しながら歴史的事象が世の中に果たした役割や事象間のつながりを考え、時代の特徴をとらえる活動を行った。

キーワード 【小一社会 広い視野 考える力 地域資料 ぐんぐん歴史ファイル】

I 主題設定の理由

新学習指導要領では、改善の基本方針について「各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味・意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る」と示している。小学校第6学年の能力に関する目標は、「社会的事象を具体的に調査すると共に、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と設定されている。また、群馬県教育振興基本計画では地域の学習素材を生かした学習の実施を推進しており、平成21年度群馬県学校教育の指針では事象の分析・解釈を基に複数の資料を比較・関連させ事象のもつ特色や意味を考察させることに重点をおいている。

これらを踏まえ、小学校第6学年の歴史の学習において大切なことは、資料の有効な活用のもとで「歴史的事象の意味を考える力」を育てることであり、そのために、地域資料も積極的に生かし、広い視野からの考察を促す社会科授業の工夫・改善をする必要があると考える。

協力校の児童は、断片的な知識はあるものの、それを関連付けて考えることに慣れていないため、事象の一部分だけを限定的にとらえることが多い。また、歴史的事象は自分と無関係なものにとらえる傾向も見られる。歴史的事象の本質に迫る最も適切な方法は、資料から必要な情報を獲得

することであり、資料と向き合う時間を確保することから始まる。そして、広い視野から考える力を授業の中で育てていくことが、歴史的事象の本質に迫る上で重要となる。そのため、歴史的事象を身近な問題ととらえ、様々な情報から関連や意味を考えられるような単元構成、学習内容を具現化する教材を工夫しなければならないと考える。

そこで本研究では、小学校第6学年の歴史の学習において地域資料を織り交ぜた単元構成を組み、児童の考える力を徐々に高めていくための「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れていくことにした。地域資料は、歴史の足元からの追究を実現させるものである。調べたことを関連付け、大きな特徴をとらえるための段階的な単元構成に地域資料を織り交ぜることで、児童は教科書とは違う視点から歴史を考えるであろう。また、今日の生活は歴史や伝統の上に成り立っているという事実直面することで、自分たちの歴史に意味を見付けることができると考える。さらに、学習ファイルは、学習成果物を蓄積すると同時に、考えをつなげて高めていくことを可能とするものである。本研究独自の「ぐんぐん歴史ファイル」を開発し、活用方法を工夫して学習に取り入れていくことが、歴史的事象の意味を考える力を育てる上での一つの有効な手だてとなると考える。

このような単元構成を組み「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れた学習を展開すれば、資料の有効な活用のもとで歴史的事象が世の中に果たした役割や事象間のつながりを考え、時代の特徴を大きくとらえることで歴史的事象の意味を広い視野から考える力が育つと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校歴史分野の課題解決的な学習において、地域資料を織り交ぜた単元構成を組み「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れて思考活動を充実させていくことにより、歴史的事象を広い視野から考える力が育つことを明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 つかむ過程において、時代の特徴や問題点がつかめるような資料と共に、国と地域とのつながりを意識できるような地域資料に出会うことにより、様々な視点から課題をもてるであろう。
- 2 追究する過程において、地域資料を含めた様々な資料からの情報を整理・分析し「ぐんぐん歴史ファイル」にまとめ、それをつなげて関連図で表すことにより、歴史的事象の果たした役割やつながりを考えることができるであろう。
- 3 まとめる過程において、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用しながら築き上げてきた考えを交流することにより、自分の住んでいる地域や現在の生活とのかかわりから時代の特徴を大きくとらえ、歴史的事象の意味を広い視野から考えることができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え

(1) 歴史的事象の意味を広い視野から考える力について

本研究では、歴史的事象の意味を広い視野から考える力を、「住んでいる地域や現代の生活とのかかわりも含めて時代の特徴を大きくとらえる力」であると定義する。このような力は、各種基礎的資料を効果的に活用して情報を整理し、それぞれの歴史的事象の果たした役割やつながりを様々な視点から考え、さらに交流を通して築き上げた考えを再構成するような段階的な学習を展開することで身に付くものであると考え。

(2) 地域資料を織り交ぜた単元構成と「ぐんぐん歴史ファイル」について

「住んでいる地域や現代の生活とのかかわりも

含めて時代の特徴を大きくとらえる力」を育てるために、地域資料を織り交ぜた課題解決的な学習を取り入れる。本研究では、「つかむ」「追究する」「まとめる」という課題解決的な学習の過程を、さらに細かく5段階構成とする（表1）。

表1 5段階の単元構成

過 程		主 な 活 動
追 究	つかむ	① 資料を基に共通の学習課題をもつ
	情報整理	② 資料からの情報を整理・分析し歴史的事象の特色を明らかにする
	比較・関連付け	③ 歴史的事象の特色や事象間の関連を関連図に表して考える
ま と め る	総合・再構成	④ 交流で得た新たな情報を基に再度関連図に表して改めて考える
	論 述	⑤ 自分なりの考えを論述する

これらの各過程の学習に地域資料を補助資料として活用しながら、歴史的事象の特色を自分とのかかわりから追究し、視点を変えて意味を考えるための手だてとする。また、調べて分かったことをまとめたり、分かったことや考えたことを自分の言葉で表現する活動を「ぐんぐん歴史ファイル」を使って行う。「ぐんぐん歴史ファイル」とは、各過程のワークシートや資料を見開き状の厚紙に貼り合わせていく形式の学習ファイルのことであり、単元すべての学習内容が一度に目に入るように工夫する。なお、各過程の学習と「ぐんぐん歴史ファイル」との関連は、研究構想図（図1）のとおりである。

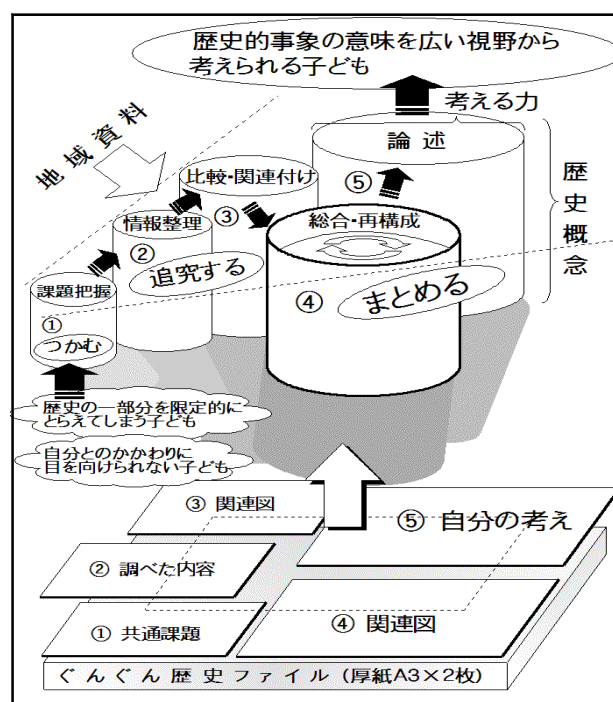


図1 研究構想図

V 研究の計画と方法

1 実践計画

対 象	小学校第 6 学年
単 元 名	「世界に歩み出した日本」(明治・大正期の歴史)
期 間	10月13日～11月 9 日
授 業 者	長期研修員 阿久津 泰

2 抽出児童

A	歴史的事象の意味を考える力は身に付いているが、時代の特徴を大きくとらえられず一面的な見方をしてしまう傾向が見られる。「ぐんぐん歴史ファイル」を各過程の学習に応じて有効に使うことによって、確かな歴史概念が身に付き、広い視野から考える力が高まるであろう。
B	資料から得た情報を整理したりつなげて考える力がやや不足している。「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して自分の力で情報を整理し、関連付けて考えて自分なりに表現することで、社会的事象の果たした役割やつながりを考える力が高まるであろう。

3 検証計画

検証項目	検 証 の 視 点	検証の方法
見通し 1	つかむ過程において、明治期の特徴や問題点が見つめるような資料と共に、国と地域とのつながりを意識できるような地域資料に出会うことは、様々な視点から追究する課題をもつ上で有効であったか。	活動状況の観察 ワークシートの分析
見通し 2	追究する過程において、地域資料を含めた様々な資料を調べ、共通点や相違点を見付けたり、原因と結果を組み合わせたりして「ぐんぐん歴史ファイル」に関連図を書き表したことは、歴史的事象の果たした役割やつながりを考える上で有効であったか。	活動状況の観察 ワークシートの分析 事後調査
見通し 3	まとめる過程において、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して、交流から得た新たな情報を基に改めて歴史的事象の果たした役割やつながりを考えたことは、明治・大正時代の特徴をとらえた確かな歴史概念を形成し、歴史的事象の意味を広い視野から考える力を高める上で有効であったか。	活動状況の観察 ワークシートの分析 論述文の分析 事後調査

4 単元の目標及び評価規準

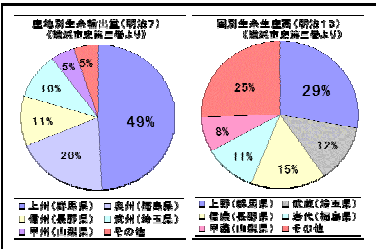
(1) 単元の目標

年表や写真、地図、統計などの資料を効果的に活用して、日清・日露の戦争、条約の改正、科学の発展について調べて我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考え、国力が充実し国際的地位が向上していったことを理解すると共に、我が国の歴史や伝統への関心を深めることができる。

(2) 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
日清・日露の戦争や条約改正、科学の発展などに関心をもち、自分たちの生活の歴史的背景も踏まえて意欲的に調べている。	我が国の国力が充実し国際的地位が向上していった様子を、産業の発展や外国との関係について調べた情報を基にして、関連付けて考えている。	地域資料を含めた資料を効果的に活用し、日清・日露の戦争や条約改正、科学の発展の様子を調べ、その過程や結果を目的に応じた方法で表現している。	日清・日露の戦争における勝利や条約改正、科学の発展などを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上していったことが分かる。

5 指導計画（全10時間）

過程	時	学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て	織り交ぜた地域資料の例
つかむ	1	○ 当時の出来事について資料を基に気付いたことを話し合い、本単元の共通課題をもつ。	○ 疑問点や矛盾点など様々な視点から学習課題がもてるように、「ノルマントン号事件」と「鹿鳴館」の2枚の絵を提示すると共に、時代の特徴を示す地域写真を提示する。 ○ 設定した共通課題を常に意識しながら学習できるように、ワークシートを「ぐんぐん歴史ファイル」左上に添付するよう指示する。	 桐生明治館の外観
追	2・3・4・5	○ 各資料から「日清日露戦争」「条約改正」「韓国併合」「科学の発展」「産業の発展の生活の近代化」について調べて考える。	○ 事象の特色を分かりやすく整理できるように、各時間の学習課題に応じたワークシートを用意する。 ○ 事象を身近にとらえたり、地域や現代の様子と関連付けて考えたりできるように、「地域資料集」を活用する場を設ける。 ○ 速やかに視野を広げて考えられるように、「ぐんぐん歴史ファイル」の年表資料・地図資料・資料の手引きを効果的に使うよう助言する。	 地域の写真と校内にある石碑
比較・関連付け	6・7	○ 学習した内容を振り返り、国・歴史的事象・人物とそれぞれの分野で学習した言葉を確認し、役割やつながりを考えて関連図で表す。	○ 学習した各事象の意味を改めて考えられるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して重要語句を洗い出す場面を設ける。 ○ 情報をつなげて考えられるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して、時間と国の関係を軸に組み立てるよう助言する。	 生糸産業の活況を示す資料
まとめ	8・9	○ 交流で得た情報を基に、戦争・条約改正・産業の発展などそれぞれの因果関係をより具体化した関連図を考えて作る。	○ 地域や現代との関連を考えられるように、郷土資料室長との交流を図り写真資料や実物資料を提示する。 ○ より焦点化した全体像を関連図で表現できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して、国力が充実し国際的地位が向上したことを示すキーワードを確認する。 ○ 他の児童からの新たな情報を得て自分の考えを再構成できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」を基にした交流場面を設ける。	 大里仁一先生との交流の様子
論述	10	○ 今までの学習を振り返り、自分なりの考えをまとめて論述する。	○ ねらいを的確にとらえて時代の特徴を限られた文字数で表現できるように、「ぐんぐん歴史ファイル」からの情報を十分に活用して、歴史的事象の一部分でなく全体像をとらえて考えるよう助言する。	 明治時代の桐生織物の標本

VI 研究の結果と考察

1 つかむ過程における絵や写真など資料提示の有効性について

(1) 第1時の授業実践の結果

ノルマントン号事件の風刺画と鹿鳴館での舞踏会の絵を基に学習課題を作った。まず、2枚の絵から分かること、比較して気付いたことを各自で記入し、そこから全員で単元の共通課題を作った。抽出児童A、抽出児童B共に資料の比較から自分なりの考えをもつことができ、ワークシートに記述した。

抽出児童A

「欧米に認めてもらいたいのに、かべがある」

抽出児童B

「文明国のアピールをしているが認めてもらっていない」

クラス全体で考えた共通課題

- ① 日本はどのように不平等条約を改正していくのか
- ② 国内の産業や生活はどのように発展していくのか

さらに地域資料として、桐生明治館の写真や富岡製糸場の写真を提示した。児童は、ベランダや白壁の様子から、明治時代は近代化の時代であるという外郭的な特徴をつかんだ。また、地方にも近代化が及んでいることに気付き、「東京から群馬に伝わってきた」「いつでも調べられる身近なところに明治の遺産がある」という発言も聞かれた。本時のワークシートは「ぐんぐん歴史ファイル」左上に添付した（図2）。



図2 抽出児童Aのぐんぐん歴史ファイル①

(2) 考察

児童の発言や記述の様子から、資料の読み取りを通して、不平等条約という歴史的事象を中心に時代の外郭的な特徴や問題点をつかむことができたことが分かる。また、身近にある明治時代の歴史的建造物から、江戸時代との文化の違いや国と地域とのつながりを意識することができた。

以上のことから、ノルマントン号事件と鹿鳴館の様子を示す資料と共に、桐生明治館や富岡製糸場など地域の近代化を示す地域資料を提示したことは、様々な視点から課題をもつ上で有効であったと言える。

2 追究する過程で地域資料や「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れたことの有効性について

(1) 第2時から第7時の授業実践の結果

第2時：日清・日露戦争についての学習

児童は各種資料から日清・日露戦争について調べ、分かったことを比べてそれぞれの戦争の特徴を考えた。戦死者や戦費の数を示すグラフの比較により、日露戦争の方が損害が大きいことをとらえた児童は、それらの戦争が国民生活へ大きな影響を与えたことを追究した。与謝野晶子の反戦詩と共に、記念碑前に集まる桐生市民の様子や校庭の石碑など「地域資料集」に掲載してある資料の意味を考えた。その結果、日露戦争には様々な要因があり勝利と損失との両局面から戦争に対して様々な思いがあったことを知った。抽出児童AとBは戦争を客観的にとらえた記述ができた。

地域資料を生かした記述

抽出児童A

「勝った喜びもあったが、戦争への反対や不満があった」

抽出児童B

「反対だった」改め「反対と喜びと両方あった」

第3時：条約改正についての学習

まずは不平等条約の内容を簡単に理解するために、教師から提示されたプレゼンテーションで学習を進めた。不平等条約による不利益を具体的にとらえ、回復することで国際的地位が向上することを確認した上で本時の課題を調べていった。条約改正までの道筋について、主に年表資料を活用して時系列で追究した。条約改正できた理由については、児童は外務大臣の外交努力によることだけではなく、国民感情の高まりやイギリスとの同盟関係も視野に入れて考えることができた。

また、「ぐんぐん歴史ファイル」の添付ワークシートをめくり、前時とのつながりを意識しながら考える場面もあった（図3）。

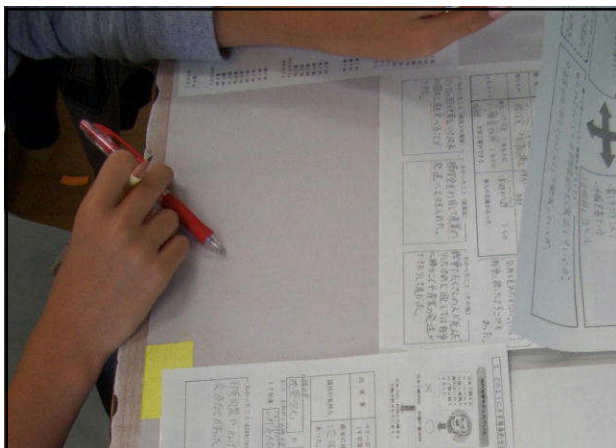


図3 ファイルで前時の内容を確認する児童

抽出児童Bは、戦争の勝利も条約改正の要因の一つとなったということをとらえて記述した。抽出児童Aは、戦争の勝利と条約改正を照らし合わせて考え、外国と対等になりつつある関係性にまで言及することができた。条約改正という歴史的事象だけでとらえず、「ぐんぐん歴史ファイル」を生かして前時に学習した日清・日露戦争にまで視野を広げて考えることができた。

ぐんぐん歴史ファイルを生かした記述

抽出児童A

「日清・日露戦争と2つの戦争で勝ったり、条約改正などもできたので、外国に認めてもらうことができた」

抽出児童B

「日清・日露戦争と2つの戦争で勝ったので条約改正ができた」

第5時：産業発達や生活近代化についての学習

授業のはじめに、明治末期の前橋市の女学生を写した写真資料の服装から、群馬の人々の生活も少しずつ近代化してきていることを確認した。その後は、日清・日露戦争を契機に産業が盛んになってきている様子を示すグラフを使って、産業発達と戦争の関係を調べた。地域資料である「明治時代の県内の工場分布図」と「明治時代の県内の鉄道」の二つの地図を比較して読み取ることによって、児童は国全体が産業面で発達していることと共に、群馬県にも富岡製糸場や桐生織物株式会社をはじめ多くの工場が存在していたことをとらえ、それに合わせて鉄道も敷かれたという事実を知ることができた。さらに、地域資料集掲載の生

糸産業の活況を示す資料とも照らし合わせて考え、群馬県の産業発達が我が国の成長を支えていたという事実もとらえることができた。また、産業の発達だけを限定的にとらえず、「ぐんぐん歴史ファイル」を生かして日清・日露戦争や条約改正にまで視野を広げて考えることができた。

地域資料を生かした記述

抽出児童A

「戦争後、群馬で工業生産も多くなり、今にも受けつがれている」

抽出児童B

「群馬県の産業はこの時発展して、製品を運ぶために鉄道ができた」

ぐんぐん歴史ファイルを生かした記述

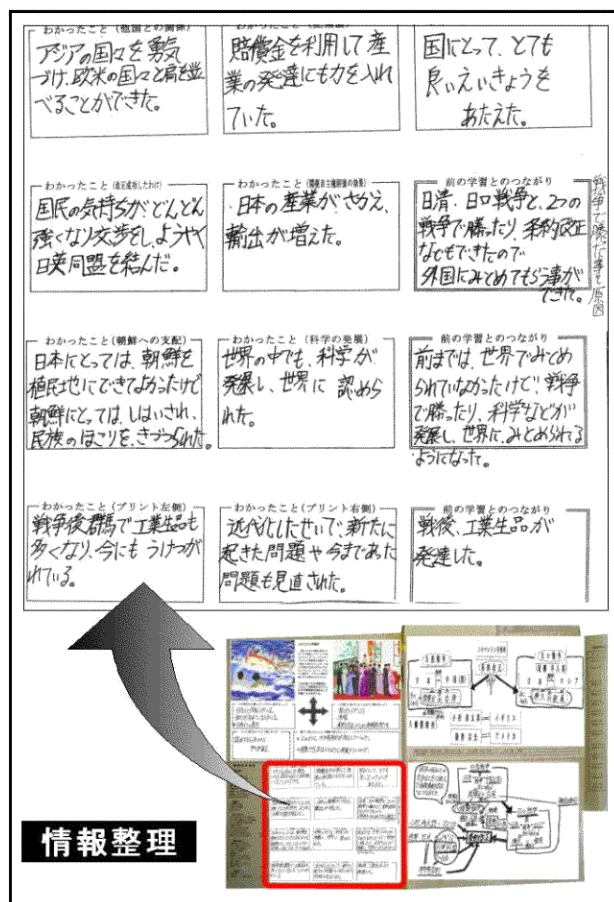
抽出児童A

「戦争の後に工業生産が上がっていく」

抽出児童B

「戦争と条約改正と生産量はつながっている」

どの児童も、4時間の学習で資料を有効に活用して考えることができた。そこで、整理した情報が表面に出るように「ぐんぐん歴史ファイル」左下に4枚をずらした状態で添付した（図4）。



情報整理

図4 抽出児童Aのぐんぐん歴史ファイル②

第 7 時： 関連図作成

前時に「ぐんぐん歴史ファイル」を見直す時間を設け、重要語句を全員で出し合って、重要語句の付箋紙を作成した。本時はその付箋紙をつなぎ合わせて各自で関連図を作成した。抽出児童Aは何度もカードを貼ったりはがしたり試行錯誤をくり返し領域分けに力を注いでいた。抽出児童Bは「ぐんぐん歴史ファイル」でしばらく学習内容をふり返ってから作成に取りかかった(図5)。

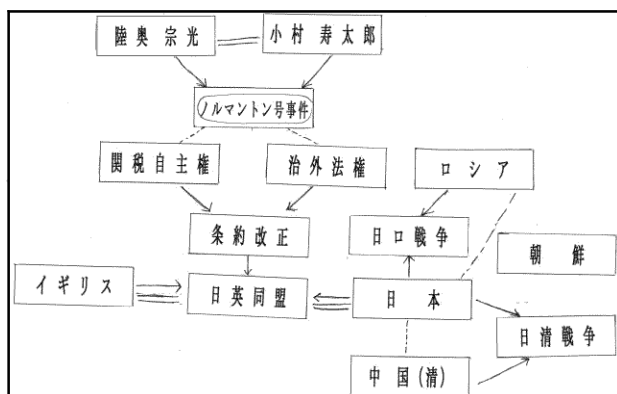


図5 付箋紙を使った抽出児童Bの関連図①

抽出児童Bは中心となる用語の付箋紙は選べたが、2人の外務大臣のかかわり方や条約改正と日英同盟の関係などにおいて誤った認識があり、この時点では完全な関連図はできなかった。このような関連図は、「ぐんぐん歴史ファイル」右上に添付した(図6)。

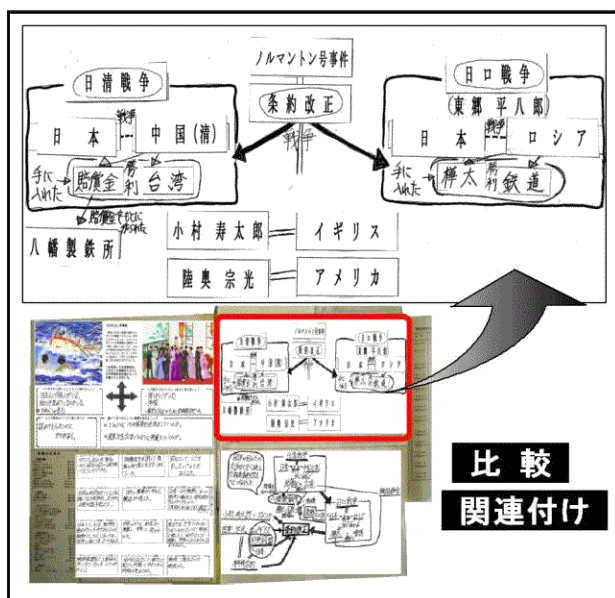


図6 抽出児童Aのぐんぐん歴史ファイル③

(2) 考察

地域資料によって、教科書に記載されている歴史的な事象について視点を変えて考えるだけでな

く、地域や現代とつなぎ合わせて考えることの重要性を追究してきた。第5時はその効果が表れ、抽出児童Aの「群馬でも工業生産が多くなりそれが現在にも受けつがれている」という内容の記述から、広い視野から考えて国と地域とのつながりと同時に、明治時代と現代とのつながりまでもとらえることができたことが分かる。

「ぐんぐん歴史ファイル」を前後の学習に生かすという方法は児童全員に定着し、学習が進むにつれファイルを進んで活用する姿が見られた。学んだことを再確認すると同時に新しい知識と既習の知識をつなぎ合わせて考えることも容易にできるという点で、効果が表れたと考えられる。

第7時の関連図作成は、比較・関連付けをして考える最初の場合面であったが、この際、ファイル左上の共通課題を視野に入れ、常に課題を意識して学習に取り組めた。また、左下に4時間の学習内容が集約されており、そこから情報を取り出し、各種の線で結ぶことで社会的事象の果たした役割やつながりについて考えることができた。

以上のことから、地域資料や「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れたことは、各事象の役割やつながりを考える上で有効であったと言える。

3 まとめる過程で地域資料や「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れたことの有効性について

(1) 第8時から第10時の授業実践の結果

第9時：2度目の関連図を作成

第8時の交流で得た新たな情報を基に、考えを再構成した。グループ内の交流で付箋紙を使った関連図の相互評価を行い、抽出児童A、B共につながりが分かりやすいとの評価を得た。2人はその図を基本形として、誤った認識を正し、焦点化した関連図を作成することができた(図7)。

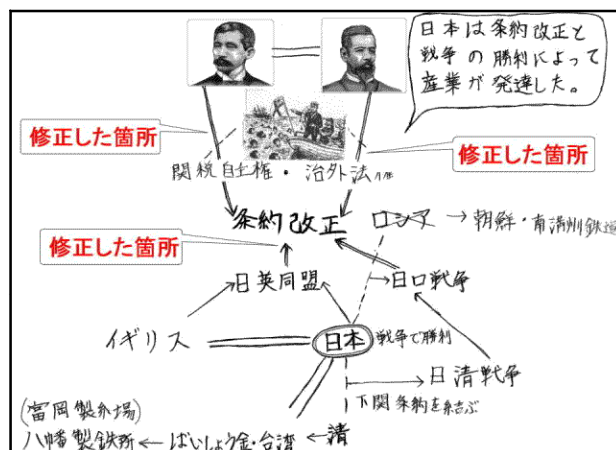


図7 再構成した後の抽出児童Bの関連図②

抽出児童Bは、陸奥宗光と小村寿太郎がそれぞれ条約改正にかかわったことを図の上部から大きく示し、条約改正の下から戦争の勝利や日英同盟が支えているような図を作成した。関連図に合わせてテーマも設定した。2度目の関連図は「ぐんぐん歴史ファイル」右下に添付した（図8）。

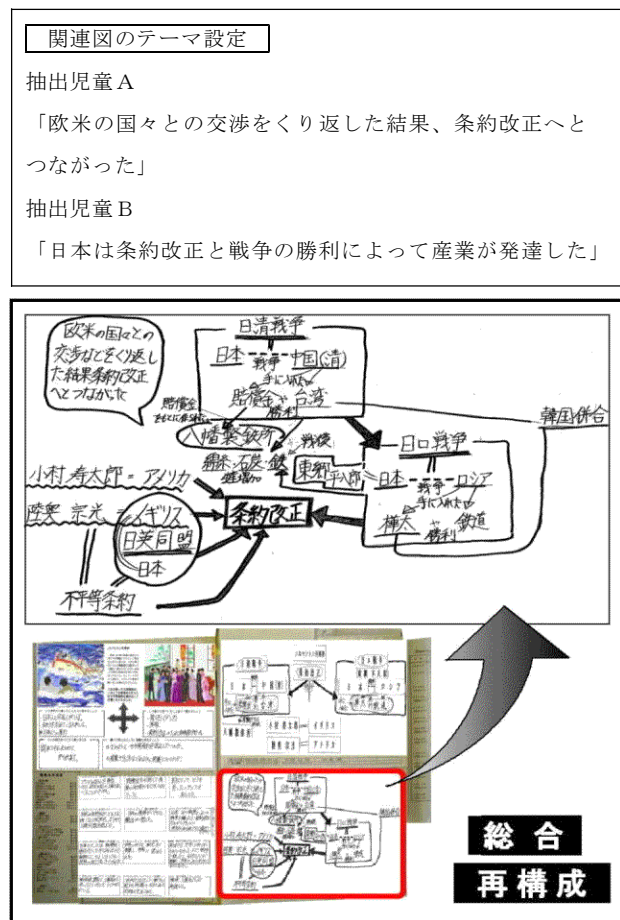


図8 抽出児童Aの関連図④

第10時：考えたことを論述する学習

今までの学習内容を集約し、自分の考えを限られた文字数の中で表現しなければならないため、「ぐんぐん歴史ファイル」で内容を確認して吟味する必要があった。抽出児童Aは、第8時の教育資料室長との交流を生かし、戦争と地域との関係に触れることができた。抽出児童Bは現代の生活と関連させて考えることができた。

地域資料を生かした記述

抽出児童A
「西小の松は中将・元帥が植えたと知って驚きました。群馬県も、日露戦争の勝利に関係しているのです」

抽出児童B
「戦争をして領土や工業に力を注ぐのはよくないけど、戦争や条約改正がなかったら今の平和な暮らしはないし、外国の仲間入りも果たせなかったと思います」

抽出児童Aは、第1時での共通課題を意識し、条約改正と産業発達の関連性について論述できた。抽出児童Bは「地位が上がる」「国が豊かになる」という表現を使って、時代の特色を大きくとらえて論述できた。このように、「ぐんぐん歴史ファイル」を生かし、今までの学習内容を集約させながら自分の考えを表現することができた。

「ぐんぐん歴史ファイル」を生かした記述

抽出児童A
「条約改正のおかげで、欧米の国々と仲良くなれて工業も発達しました。平和な暮らしも、そのおかげです」

抽出児童B
「条約の改正によって産業が発達して世界の中で地位が上がり、国が豊かになったと思います」

各児童がこの時間で記述した文章は「ぐんぐん歴史ファイル」裏面に添付した（図9）。

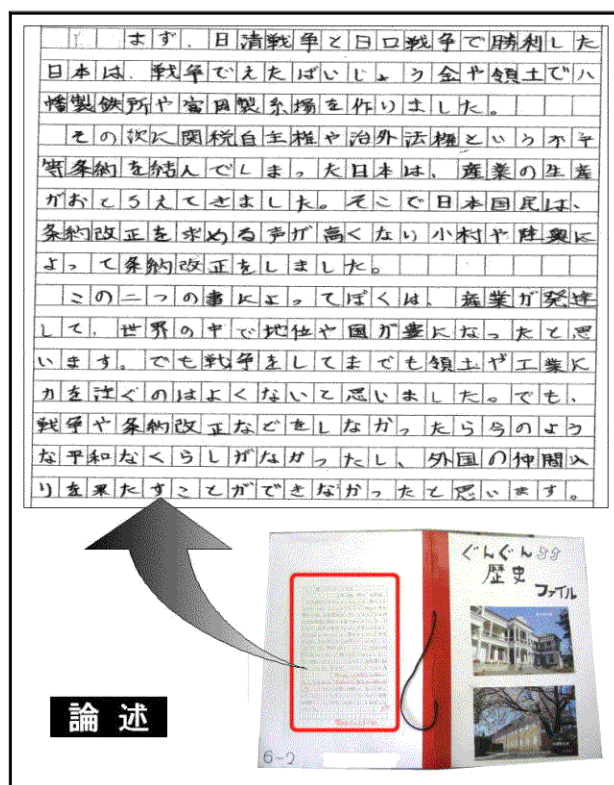


図9 抽出児童Bの関連図⑤

(2) 考察

第8時に提示した様々な地域資料により、児童は住んでいる地域や便利になった現代の生活とのかかわりをより強く意識することができた。抽出児童Aが記述した文章にも表れているように、歴史的事象は決して自分に無関係ではなく身近であると気づき、そのように記述できた児童も多数い

た。考えを再構成する場面においては、「ぐんぐん歴史ファイル」で築き上げてきた自分の考えを確認し、同時に他の児童のファイルも参考にして、自分の考えと照らし合わせたり再度吟味するような活用もできた。その点においてファイル効果が発揮されたと言える。また、ファイルを作り上げていくことは、児童の満足感にもつながった。

以上のことから、地域資料や「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れたことは、時代の特徴をとらえ確かな歴史概念を形成し、広い視野から考える力を高める上で有効であったと言える。

4 児童の変容について

(1) 各段階における到達度の推移

二度の関連図作成と論述を通して、どの程度の児童がねらいに言及しているかを知るため、ワークシートと論述文の分析を行った(図10)。

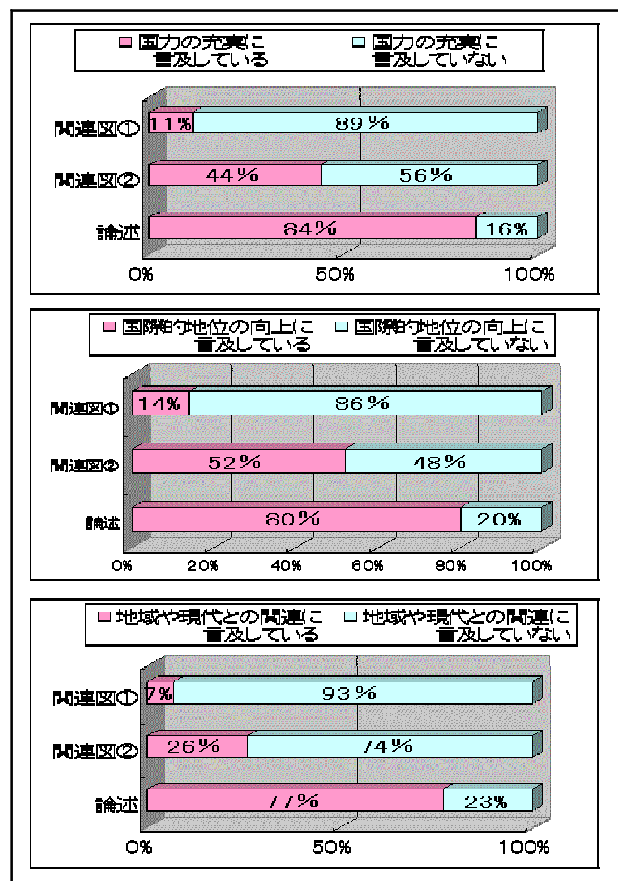


図10 各段階のねらいへの言及度の推移

「国力の充実」「国際的地位の向上」および「自分たちが生活している地域や現代の社会」に関する内容が表現されているかどうかを評価の観点とした。関連図②での増加は交流で得た新たな情報がねらいと直接結び付く情報であったことを、論述での増加は図での表現が困難な要素が文章によ

って補われたことを、それぞれ表している。段階を追って考える視野が広がり、単元のねらいへと焦点化されていくことが、数値の推移から分かる。

(2) 「ぐんぐん歴史ファイル」の利用頻度と身に付いた態度・能力の関係

このことを調べるため、アンケートや授業観察を基に、ファイル利用頻度と身に付いた能力のクロス集計を行った(表2)。

表2 ファイル利用頻度と身に付いた態度・能力

身に付いた力(時)	人数	利用頻度の内訳			
		常に利用	多く利用	少し利用	利用せず
幅広い学習意欲が見られた(学習全校)	16人	38% (6人)	44% (7人)	13% (2人)	1% (1人)
各歴史的事象についてまとめられた(2~5時)	23人	22% (5人)	61% (14人)	17% (4人)	0% (0人)
関連を正しくおさえた図がかけた(6~9時)	12人	25% (3人)	58% (7人)	17% (2人)	0% (0人)
ねらいに到達した論述を書けた(10時)	20人	15% (3人)	65% (13人)	20% (4人)	0% (0人)

※ 印は特に高い部分

本単元では、「ぐんぐん歴史ファイル」を活用して情報を整理し関連付けて考え、それを再構成してまとめてきた。ファイルは見やすく、自分の考えを記入する上では便利であったが、本来は整理し関連付けたものを自分なりに分析すること、そして吟味することが重要となる。頭の中での作業になるので、ファイルから離れて自力で考える場面も必要となる。分析・吟味の繰り返しができた児童が、確かな歴史概念を形成できたと言える。集計の結果が示すとおり、ファイルから答えを探すのではなくファイルを使って自分で考えを築き上げた児童が考える力を高めたことが分かる。

(3) 事前調査と事後調査の比較

児童の「考える力」の向上は、資料の分類の仕方や読み取り方からも考察することができる。実践授業前と後で、児童の「考える力」がどのように変容したかのかを検証するために、同じ設問で事前調査と事後調査を行った(表3)。

表3 事前・事後調査の具体的な内容

求められる力	設問	具体的な問題の内容
資料を領域別に分類する力	1	貴族と武士にかかわる資料を3つずつ提示。それぞれを分類して特徴を述べる。
複合型グラフから全体の特徴を読み取る力	2	江戸時代の大きな飢饉と百姓一揆の件数を示した資料から分かったことを述べる。
地図を基に全体の特徴を読み取る力	3	江戸時代末期の各列強の領土を示したアジア地図から分かったことを述べる。

内容は、明治・大正期とは関係のない鎌倉から江戸期にかかわる領域とし、本単元の学習内容が反映されないよう配慮した。なお、事前調査後は用紙返却も答え合わせもせず、そのまま授業実践に入った。分析の結果、どの設問も正解者が増加した（図11）。

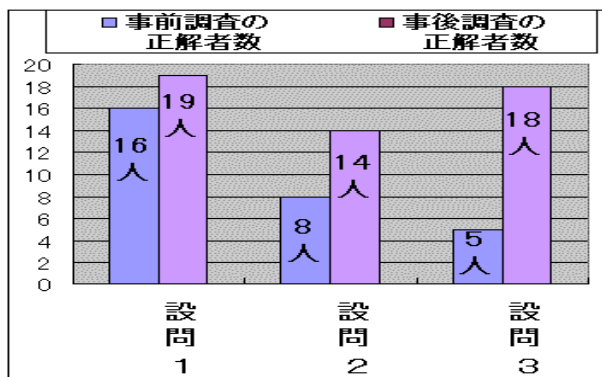


図11 事前・事後調査の正解者の比較

設問2については、天保の飢饉と天明の飢饉の数値比較のみの記述が多かったが、「大きな飢饉があるときに百姓一揆も数多く起きる」という関連性に触れられた児童が2倍近くも増えた。設問3についても、イギリス領が最も多いというような一面的な見方しかできない児童が多数いたが、「アジアなのはほとんどがイギリスやフランスなどの列強の領土になっている」という総合的な記述ができた児童が増えた。

今回の研究を通して、時代の領域に関係なく、広い視野から考える力が少しずつ身に付いてきたという効果が表れたと言える。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

(1) 地域資料について

- 5段階の単元構成を組み、それぞれの学習課題に応じた地域資料を厳選して織り交ぜたことで、歴史的事象の意味を常に足元から考えることができた。そして、今日の生活は国家や社会の発展に尽くした先人によって創りだされた歴史の上に成り立っているということにも気付くことができた。
- 教科書や資料集に掲載されている資料だけでは分からない事実を導き出すことが可能となり、教科書や資料集の資料と関連付けて追究することにより、国と地域、明治期と現代とのつながりを具体的にとらえることができた。

(2) 「ぐんぐん歴史ファイル」について

- 便利な学習ファイルを目指すものではなく、学習を進めるごとに自分の考えをファイルに積み重ねていくという意識が高まった。
- 添付の資料や今までの学習内容を常に視野に入れた学習を展開し、つなぎ合わせて関連付けて考えを高める上で大いに役立った。
- 論述でまとめる際には、ファイルを基に全ての学習内容を確認し、再度吟味することで自分なりの考えをもつことができた。

2 課題

(1) 地域資料について

- 近現代の地域資料はどの地域でも豊富にそろっているが、足尾鉍毒事件など特殊性が強い事象もあるので、資料として扱う際には吟味・精選する必要がある。
- 追究した結果が、郷土愛や先人への思いだけに集結してしまわぬような資料提示の方法や資料活用場面を考慮しなければならない。

(2) 「ぐんぐん歴史ファイル」について

- 歴史的事象の意味を考える力を高めるために、ファイルに頼らず自力で考える時間も充実させたい。比較・関連付けをして時代の特徴をとらえるだけでなく、一つ一つの意味をより深く考えるための有効なファイルの活用方法を改善・工夫していく必要がある。

小学校歴史分野の課題解決的な学習において、地域資料を織り交ぜた単元構成を組み「ぐんぐん歴史ファイル」を取り入れて思考活動を充実させたことにより、歴史的事象の意味を広い視野から考える力が育ったことが明らかとなった。また、この単元の学習を通して自分たちの歴史に意味を見付けることもできたと言える。課題点も残されたが、今後もより充実した社会科学習が展開できるよう、さらなる工夫・改善を図っていきたい。

<参考文献>

- ・安野 功 著 『社会科授業力向上5つの戦略』 東洋館出版社(2006)
- ・小原友行 編著 『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン』 明治図書(2009)
- ・森分孝治、片上宗二 編著 『社会科重要用語300の基礎知識』 明治図書(2000)